

Aminosaline による耳鼻咽喉科感染症の治療成績

三辺武右衛門 太田 昇・飯田宏美

関東通信病院耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科領域の急性感染症においては、グラム陽性菌がその過半数を占めている。Aminosaline (AMD) はグラム陽性菌に対し強力な抗菌力を有する広域性の抗生物質といわれ、*Streptomyces chrestomiceticus* から生産された新抗生物質である。その特徴は Neomycin や Kanamycin のグループに近い Oligosaccharide 系の抗生物質である。

われわれは本剤を耳鼻咽喉科感染症の治療に応用し、見るべき治療成績を収めたので、起炎菌に対する抗菌試験成績とあわせて報告する。

I. 抗菌試験成績

各種感染症 30 例 (化膿性中耳炎 17 例, その他の感染 13 例) から分離した検出菌は、黄色ブドウ球菌は 8 株, 表皮性ブドウ球菌 3 株, 連鎖球菌 (α) 4 株, 連鎖球

表 1 黄色ブドウ球菌に対する AMD の抗菌力

MIC mcg/ml	0.4	0.8	1.6	3.2	6.3	12.5	25	50	100 $\geq$	
菌株数		14	1	3	1	1				20

菌 (γ) 2 株, 肺炎球菌 1 株, 桿菌 (G (-)) キャンデーダ 1 株であつた。黄色ブドウ球菌 20 株に対する AMD の抗菌試験を行なうに抗菌力のピークは 0.8 mM/ml にあることがわかつた (表 1)。

II. 治療成績

AMD を耳鼻咽喉科感染症 30 例に使用して臨床経過を観察した。投与法は 1 回量は 0.5~1g にて、1 日 1 回または 2 回の注射を行なつた。治療効果の判定は症状著しく改善して治癒したものを著効 (+), 軽快したものを有効 (+), 症状にほとんど変化のないものを無効 (-) とした。

1. 化膿性中耳炎における治療成績 (表 2, 4)

化膿性中耳炎 17 例では著効 11 例, 有効 3 例, 無効 3 例であつた。使用日数は 2~8 日間であつたが、3~5 日間使用したものが最も多く、最も多量使用した症例は 8 日間に 10.5g であつた。

2. その他の感染症における治療成績 (表 3, 4)

AMD の治療を行なつた症例は耳癰 3 例, 鼻癰 2 例, 扁桃炎 6 例, 扁桃周囲膿瘍 1 例, 喉頭蓋蜂窩織炎 1 例の

表 2 Aminosaline の化膿性中耳炎に対する治療成績

症 例	年 令	性	診断名	起 炎 菌	感 性				投 与 法			副作用	効果
					PC	TC	EM	KM	1 日量 (g)	日数	総量		
1.	27	♂	急 中	no growth					1	3	3	—	+
2.	9	♀		<i>Strep. (α)</i>	+	+	+	+	0.5	6	3	—	+
3.	5	♂		<i>Strep. (β)</i>	+	+	+	+	0.5	4	2	—	+
4.	13	♂		Gr (-) Rod	—	+	+	+	0.5	2	1	—	+
5.	9	♂		<i>Staph. aur.</i>	+	+	+	+	0.5	2	1	—	+
6.	28	♂		<i>Staph. aur.</i>	—	+	+	+	1	4	4	—	+
7.	7	♀		no growth					0.5	3	1.5	—	+
8.	62	♂	左	<i>Staph. aur.</i>	—	+	+	+	0.5	5	2.5	倦怠感	+
9.	29	♂	右急中	<i>Staph. aur.</i>	+	+	+	—	1	4	4	—	+
10.	35	♂	〃	<i>Strep. (α)</i>	+	+	+	+	1.0	3	3	—	+
11.	10	♀	〃	no growth					0.5	2	1	—	+
12.	32	♀	左急中	<i>Diplo. pneum.</i>	+	+	+	+	1.0 1.5	3 5	(10.5)	—	—
13.	11	♀	〃	<i>Staph. aur.</i>	—	+	+	+	1	4	4	—	+
14.	41	♂	右 〃	<i>Staph. aur.</i>	+	+	+	+	0.5	3	1.5	—	+
15.	17	♀	左 〃	<i>Staph. epiderm.</i>	+	+	+	+	1	4	4	—	—
16.	40	♂	左慢中	<i>Staph. aur.</i>	+	+	+	+	1	5	5	—	+
17.	35	♀	〃	<i>Staph. aur.</i>	+	+	+	+	1	3	3	—	—

表3 Aminosalicylate によるその他の感染症の治療成績

症 例	年 令	性	診 断 名	起 炎 菌	感 性				投 与 法			副作用	効 果
					PC	TC	EM	KM	1日量 (g)	日数	総量		
1.	18	♀	左 耳 瘻	Staph. aur.					1	4	4	—	+
2.	46	♀	〃						0.5	4	2	—	+
3.	37	♀	〃		—	+	+	+	0.5	4	3	—	—
4.		♂	鼻 瘻		—	—	+	+	0.5	4	2.0	—	—
5.	54	♂	〃	Staph. epiderm	+	+	+	+	1	2	2	—	+
6.	46	♀	急性扁桃炎	Neisseria, Cadida					1	2	2	—	+
7.	21	♀	〃						0.5	2	1	—	+
8.	15	♀	腺窩性扁桃炎	Staph. aur.	+	+	+	+	0.5	2	1.0	—	+
9.	37	♂	〃	Strep. (α)	+	+	+	+	1	2	2	—	+
10.	31	♂	〃	Strep. (γ)	+	+	+	—	1	4	4	—	+
11.	22	♀	〃	Staph. aur	+	+	+	+	1	4	4	—	+
12.	37	♂	左扁桃周囲膿瘍	Staph. epiderm. (切開)	+	+	+	+	0.5	3	1.5	—	+
13.	46	♂	喉頭蓋蜂巣織炎	Strep. (α)	+	+	+	+	1	5	5	—	+

表4 AMD による治療成績

診 断 名	例数	治 療 効 果		
		+	+	—
急性中耳炎	12	10	2	3
慢性中耳炎	2	1	1	0
耳 瘻	3	2	0	1
鼻 瘻	2	1	0	1
扁桃炎	6	5	1	0
扁桃炎周囲膿瘍	1	1	0	0
喉頭蓋蜂巣織炎	1	0	1	0
		20	5	5

13 例であつた。これらの症例の治療成績は、著効 9 例、有効 2 例、無効 2 例であつた。その使用期間は多くは 2～5 日間で、その間に AMD を 1～5 g 使用したものが多い。

III. 副作用

注射に少しく疼痛を訴えた。また 30 例のうち全身倦怠感を訴えたもの 1 例あつた。

本剤は Neomycin や Kanamycin のグループに近い Oligosaccharide 系の抗生物質であり、聴器に対する影響を考慮しなければならない。

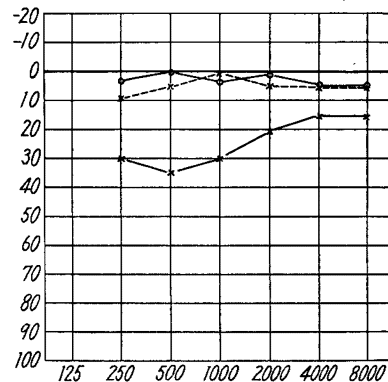
若干の症例について AMD 使用前後のオーディオメトリを行ない、聴力に対する副作用について検討した成績は次のようであつた。

症例 1 32 才 ♀ 急性化膿性中耳炎

起炎菌は肺炎双球菌にて、耳漏は大量流れ出たので

図1 アミノサイジン投与例におけるオーディオグラム
症例 32 才 ♀ 診断：左急性化膿性中耳炎

右聴力 ○—○：治療前 3/X
左聴力 ×—×：治療前 3/X
×---×：治療後 24/X



10 月 3 日入院して 1 日量 1.0 g を 2 回に注射したが治療効果がみられないので、さらに 1 日量 1.5 g に増量し 1 日 3 回の注射を 5 日間行ない、8 日間に AMD の使用総量は 10.5 g であつた。10 月 24 日中耳炎治癒後の聴力を比較すると、図 1 に示すように、聴力に対する影響は全く認められなかつた。

症例 2 46 才 ♂ 喉頭蓋蜂巣織炎

喉頭蓋が腸詰状に発赤腫脹し、連鎖球菌が検出された。そこで AMD を 1 日 1 g, 3 日間注射し、なお腫脹強いので乱切を加えさらに本剤を 2 日間使用して奏効した症例である。AMD 使用前後のオーディオグラムを比較するに聴力に対する影響は全く認められなかつた。

以上のように耳鼻咽喉科感染症におけるような、5～10日間の投与によると比較的短期投与による治療症例においては聴力に対する影響は全く認められなかつた。その他、眩暈、嘔気、嘔吐、耳鳴などの症状を訴えた症例もみられなかつた。

IV. む す び

1. 耳鼻咽喉科領域感染症から検出した黄色ブドウ球菌に対するAMDの抗菌力はそのピークは0.8 mM/mlにあることがわかつた。

2. 耳鼻咽喉科領域感染症 30例に使用した治療成績は著効20例、有効5例、無効5例であつた。

3. 副作用、使用総量は5g前後のものが最も多く、8日間に10.5g使用した中耳炎症例および他の喉頭蜂窩織炎症例について使用前後の聴力像を比較検討したが、副作用と思われる聴力所見は認められなかつた。しかし長期間大量使用する際には特に聴力障害について考慮を払いつつ使用すべきものとする。

THERAPEUTIC RESULTS OF OTO-RHINO-LARYNGOLOGICAL INFECTIONS OBTAINED BY THE USE OF AMINOSIDINE

BUEMON SAMBE, NOBORU OHTA & HIROMU IIDA

Department of Oto-Rhino-Laryngology, Kanto Teishin Hospital

The results of the clinical application of AMD to the case of oto-rhino-laryngological infections were as follows.

1. AMD in the concentration of 0.8 mcg/ml was the strongest in its antibacterial activity.
2. Of 30 cases treated with AMD in this department, 20 cases obtained remarkably effective result, while 5 cases obtained fairly effective and the other 5 cases had no effective result.
3. Side effects were not observed when AMD was administered about 5 g in total. And trouble in hearing regarded as the side effect was not observed at all.